

前園さんと、心のともたび

木村 彰伸（教育 昭和57年卒）

教員不足はとても深刻で、十数年教壇（今でも、この表現はあるのでしょうか）に立っていない私にまで声がかかる状況で、退職後の夢をいったん横に置き、1年半ほど、講師を勤めました。意外なことに、夢を追いかけるのにちょうどよい退職金をいただくことになりました。

「さて、何につかおう」と思案していたとき、「前園真聖 四国ともたび」というNHKの番組を知りました。サッカー元日本代表の前園真聖さんが、視聴者のみなさんから寄せていただいた絶景情報をもとに、四国の絶景ポイントを自転車で旅する番組です。こんどは、「友だち」と一緒に走りながら、魅力を再発見する旅をするのだそうです。

「これだ！前園さんと一緒に自転車を走らせる旅はできないけれど、心持ちを一緒にふるさとの絶景ポイント探す旅をしてみよう」、「退職金で自転車を買おう！」と思い立ったのです。

早速、サイクルショップ（スポーツ車種を専門に扱う自転車屋さんをこう呼ぶそうです）を訪ね、心持ちだけでなく自転車も一緒にしようと、「前園さんと同じ自転車が欲しいのですが…」とお願いすると、「※※のロードバイクですね。2年待ちです。自転車も部品の供給が止まっていて、再入荷は2年後です。」とのつれない返事です。つらそうな表情だったのでしょう。親切な店員さんは、購入目的、使用頻度、身長、体重、年齢などを聞いてくれ、「系列店やネットでも探して見ましたが、用意できるのは、この1台だけです。」と、見合ったロードバイクを目の前に出してくれました。フレームサイズ、タイヤサイズ、身長、目的、そして、予算など、自転車を選ぶのも簡単ではないようです。

ロードバイクに思い入れもこだわりもなく、もちろん、知識も持ち合わせていない。ただ、“前園さんと心のともたび”に出たいという夢があるだけですから、「買います！」と、迷わず告げました。前向きな気持ちに正直でいたいと思いました。今しかない、今を逃すと、旅に出られないように思えました。

ふるさとの町を数回、ロードバイクで走ってみました。

ドロップハンドルの姿勢は結構きつく、苦しいです。細いタイヤはスピード感に満ちていて、顔に当たる風は爽快です。路面の凹凸もリズムがあったりします。通学自転車の高校生と「こんにちは」と挨拶を交わすのも照れくさいものです。

更地が多くなっていることに気付き、昔は何があったのだろうと思っておこしますが、思い出せません。その一方で、変わらず昔のままの変わらぬ風景に安心していたりします。

まだ、わずかな時間しか走り続けられません。絶景ポイントを紹介するには、もう少し、“心のともたび”が必要です。